



いまこそ取り組みよう

あなたの地球温暖化対策

気温の上昇による干ばつや熱波、海面上昇や洪水—いま世界で起こっているさまざまな異常気象。二酸化炭素などの温室効果ガスの大量排出により、地球温暖化が進むと、このような異常気象も頻発すると予測されています。このまま温室効果ガスの排出を続けていると、21世紀の終わりごろには、気温が最大5.8度上昇、海面は最大88センチメートルも上昇すると言われています。現在、世界の国々が協力し、温室効果ガスを減らすための取組を進めています。こうした取組の大きな第一歩である「京都議定書」が2月に発効しました。

■地球が熱くなっている

地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素などの「温室効果ガス」。しかし、本来この温室効果ガスは、太陽熱で暖められた地球の気温を、生物が暮らしやすい温度に保つという重要な役割を果たすものです。

これまでこの温室効果ガスは、森林などの樹木や海などに吸収されることで環境の中で循環し、大気中で一定の量を保ってきました。しかし、一七五〇年ごろから始まった産業革命以降、人間は石油や石炭などの大量の化石燃料を使うようになりまし

た。その結果、地球上で排出される二酸化炭素の量が増え、現在では、当時の百倍以上もの二酸化炭素が、毎年排出されるようになっていきます。

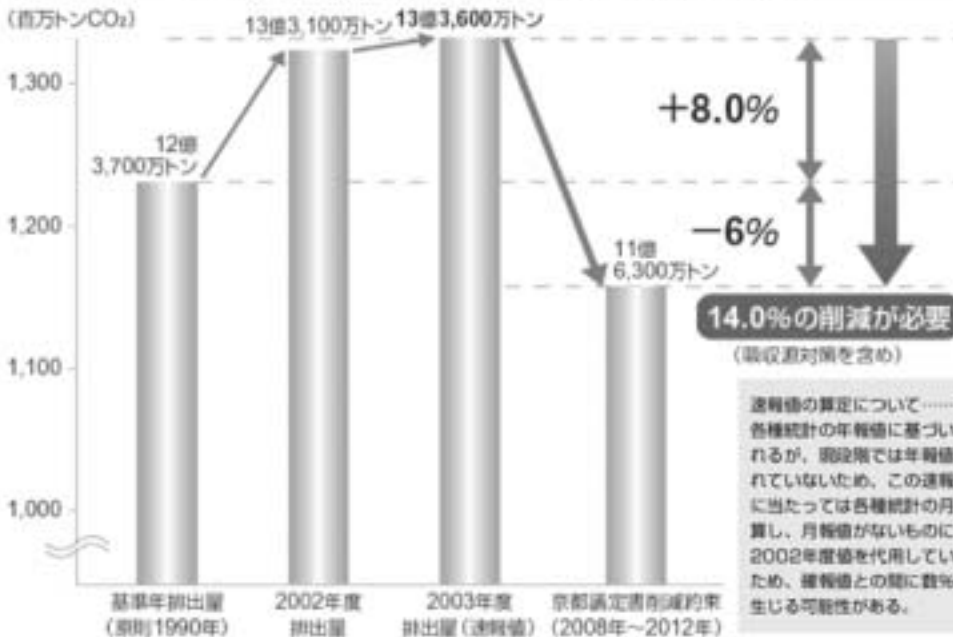
■熱くなるとどうなる？

世界で起こる異常気象

温室効果ガスの大量放出が行われた結果、一九〇〇年からの百年間で、地球の平均気温は0.6度も上昇しています。また、干ばつや熱波の発生、ヒマラヤの氷河の縮小など、地球規模でのさまざまな災害や変化が起こっています。近年では、二〇〇三年に

我が国の温室効果ガス排出量

2003年度における我が国の排出量（速報値）は、基準年比8.0%上回っており、議定書の6%削減約束の達成には、14.0%の削減が必要。



速報値の算定について……速報値は各種統計の年報値に基づいて算定されるが、現段階では年報値は公表されていないため、この速報値の算定に当たっては各種統計の月報値を精算し、月報値がないものについては2002年度値を代用している。そのため、速報値との間に数%の誤差が生じる可能性がある。

資料：環境省「Stop The 温暖化2004」

今日からできる ひとりひとりの地球温暖化対策

家庭で次の取組みを行って
温室効果ガス排出量を
削減しましょう！

■ テレビを1日1時間ガマン

→1日1時間でCO₂約13kgカット

年約1,000円の節約

■ お風呂の残り湯を洗濯に使う

→毎日残り湯を使えばCO₂約17kgカット

年約5,000円の節約

■ 冷房の温度を1℃高く 暖房を1℃低く設定

→1℃でCO₂約31kgカット

年約2,000円の節約

■ 電気製品の主電源を切って 待機電力を節約

→待機電力を90%減らせばCO₂約87kgカット

年約6,000円の節約

■ 夜中のジャーの保温を止める

→毎日保温を止めればCO₂約31kgカット

年約2,000円の節約

■ 家族全員がシャワーを 1日1分減らして節水

→1日1分でCO₂約65kgカット

年約4,000円の節約

■ 1日5分間アイドリングストップ

→1日5分間でCO₂約39kgカット

年約2,000円の節約

■ 家族が同じ部屋で団らん

→暖房と照明を2割減らせば
CO₂約240kgカット

年約11,000円の節約

参考:環境省ホームページ「みんなのできる10のコマメ」より抜粋

現在、温室効果ガスの人為的な排

■ 温室効果ガス削減への取組 「京都議定書」とは？

このように地球温暖化は、それぞ
れの国だけの問題ではなく、地球全
体で取り組まなければならない重要
な問題なのです。

欧州を記録的な熱波が襲い、フラン
スでは熱中症などにより、1万5千
人もの方々が亡くなっています。
また、温暖化は、生態系にも重大な
影響を与えます。気候の変化によつ
て生態系が乱れ、これまでその地域
に生息していた動植物が絶滅したり、
干ばつなどにより作物が不足して、
世界的な食糧危機に陥ったりするこ
とも考えられます。

これを受けて、一九九七年、「地球
温暖化防止京都会議」において、先進
各国の具体的な削減約束を定めた「京

この条約では、これまで温室効果
ガスの多くを先進国が排出してきた
ことから、「共通だが差異ある責任」
という考え方を採用し、先進国は率
先して地球温暖化対策に取り組むこ
ととされました。

出量は、年間63億トンですが、自然界
における吸収量は、その半分に満た
ない31億トンでしかありません。地
球温暖化を食い止めるためには、そ
の排出量を、自然界の吸収量と同じ
レベルにまで減らす必要があります。
このため、地球全体の大気中の温
室効果ガス濃度を安定化させること
を究極目標とした「気候変動枠組条
約」が、一九九二年五月に採択されま
した。

ですが、自動車やオフィスのビル、家庭

日本の温室効果ガス排出量の中で
も、化石燃料などの使用によって排
出される二酸化炭素は、その約九割
を占めています。これを分野別にみ
ると、工場などからの排出は横ばい

■ 私たちが止める。地球温暖化

都議定書」が採択されました。日本も
議定書において、二〇〇八年〜二〇
一二年の温室効果ガスの排出量を、
一九九〇年のレベルから6%削減す
ることを約束しています。
しかし、二〇〇三年における日本
の排出量は、一九九〇年比8%上
回っており、議定書の6%削減約束
との間には、14%の開きがあります
(環境省速報値)。

地球温暖化を食い止め、人類の共
有財産である地球を次の世代に引き
継ぐためにも、今、私たち一人ひとり
の行動が必要とされているのです。

などからの排出は2割から3割も増
加しており、これらの分野における
一層の取組が必要です。
こうした家庭やオフィスからの排
出は、日々のちよつとした節約や工
夫で減らすことができます。
例えば、冷房や暖房の温度を一度
控えめに設定する、使わない電気機
器は主電源を落とすかコンセントを
抜く、電子ジャーやポットの保温を
やめる、使わない部屋の電気は切る、
電気製品の買い替えのときには省エ
ネ製品を選ぶなど、できることはた
くさんあります。